

当院、関連施設におけるニンテダニブの短期的効果、安全性の解析

久留米大学医学部内科学講座呼吸器・神経・膠原病内科部門¹、霧が丘津田病院²

岡元 昌樹¹、中村 雅之¹、財前 圭晃¹、木下 隆¹、南野 高志¹、富永 正樹¹、津田 徹²、川山 智隆¹、星野 友昭¹

【背景】特発性肺線維症の治療薬のニンテダニブが2015年7月に国内で承認されてから、学会開催時点で約1年間が経過する。【目的】自験データからニンテダニブの短期的な治療効果、安全性について解析する。【方法】久留米大学あるいは津田病院を受診し、ニンテダニブを1ヶ月間以上投与した特発性肺線維症21例を対象とした。【成績】年齢中央値72歳、男性18例、重症度はGAP-stage 1が4例、2が11例、3が6例、臨床試験では除外症例であった%FVC 50%未満の症例が8例あった。観察期間中央値は106(範囲:36-229)日間。ニンテダニブ開始前後3-6ヶ月の間の測定ポイントからの%FVC変化量5%以上低下を増悪、上昇を改善例、他を不変例と定義すると、不変→不変4例、増悪→改善1例、増悪→不変1例、増悪→増悪2例であり、2例で短期的治療効果が認められた。増悪→増悪2例は、共にGAP-stage 3、%FVC 50%未満の重症例であった。学会ではさらにデータを追加して発表する。【結論】重症の特発性肺線維症に対するニンテダニブの治療効果は乏しい可能性があるため、軽症、中等症からの治療開始が好ましい。